

## Introduction

### 志木高周辺の地下水系

この春休み中に「新設」されたものがあります。『井戸』です。その詳細や利用目的等は井澤先生に稿を譲るとして、ここでは、志木高周辺の地下水系について話をしたいと思います。

以前、本校の周辺に湧水が多いことを地質との関係に絡めて話したので、若干内容がかぶりますが、志木高は多摩川がつくった巨大扇状地である武蔵野台地の端に位置します。私たちの足もとには、武蔵野礫層と呼ばれる水をよく通す層がありますが、このような層の深さをまとめたものが地下水位図になります。志木市周辺の地下水位図は手にはいりませんでした。新座市のものは手にはいりました。すると、県立新座高校より南側では地下水位が30m以上の深さに分布していることがわかります。その末端は『妙音沢』と呼ばれ、新座高校北側の崖から黒目川に向かって流れこんでいます。

地下水について『地下を流れる川』をイメージされると地学教師としては困るのですが、実際にはさまざまな形で存在しています。私たちが水として使うには「自由水」と呼ばれる形である必要があります。これ以外の形として砂礫の表面に貼り付いた状態の「吸着水」、砂礫間の非常にせまい空間にしか存在できない「毛管水」などがありますが、これらを人が利用することはできません。(参考文献→地下水資源・環境論、共立出版。)

(Miyahashi)



【出典：「埼玉の自然をたずねて」築地書館】

### 入学(進級)おめでとうございます

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。年度初のお約束事なので、本紙発行の由来についてお話ししようと思います。これを読んでいる生徒の8割強は次のセリフに覚えがあるはずです。すなわち『貴校を志望したのは緑溢れる豊かな環境の中で落ち着いて勉強ができると思ったからです』。もちろん、面接官の先生は(決して「またか」などという顔をせず)優しく、「そうですか」と答えてくれたりします。そして、入学後『志木高に生える草木の名前を両手の指の数ほどもいえず、教室に虫が入ると大騒ぎ』というかなり情けない実態を露呈します。

とやかく言う気はありませんが、自分が言ったことに責任は持ちなさい。「豊かである」と言えるのは、自然の個々の要素を認識できるということが大前提です。精進してください。

# 志木の自然[睦月(1月), 如月(2月), 弥生(3月), 卯月(4月)]

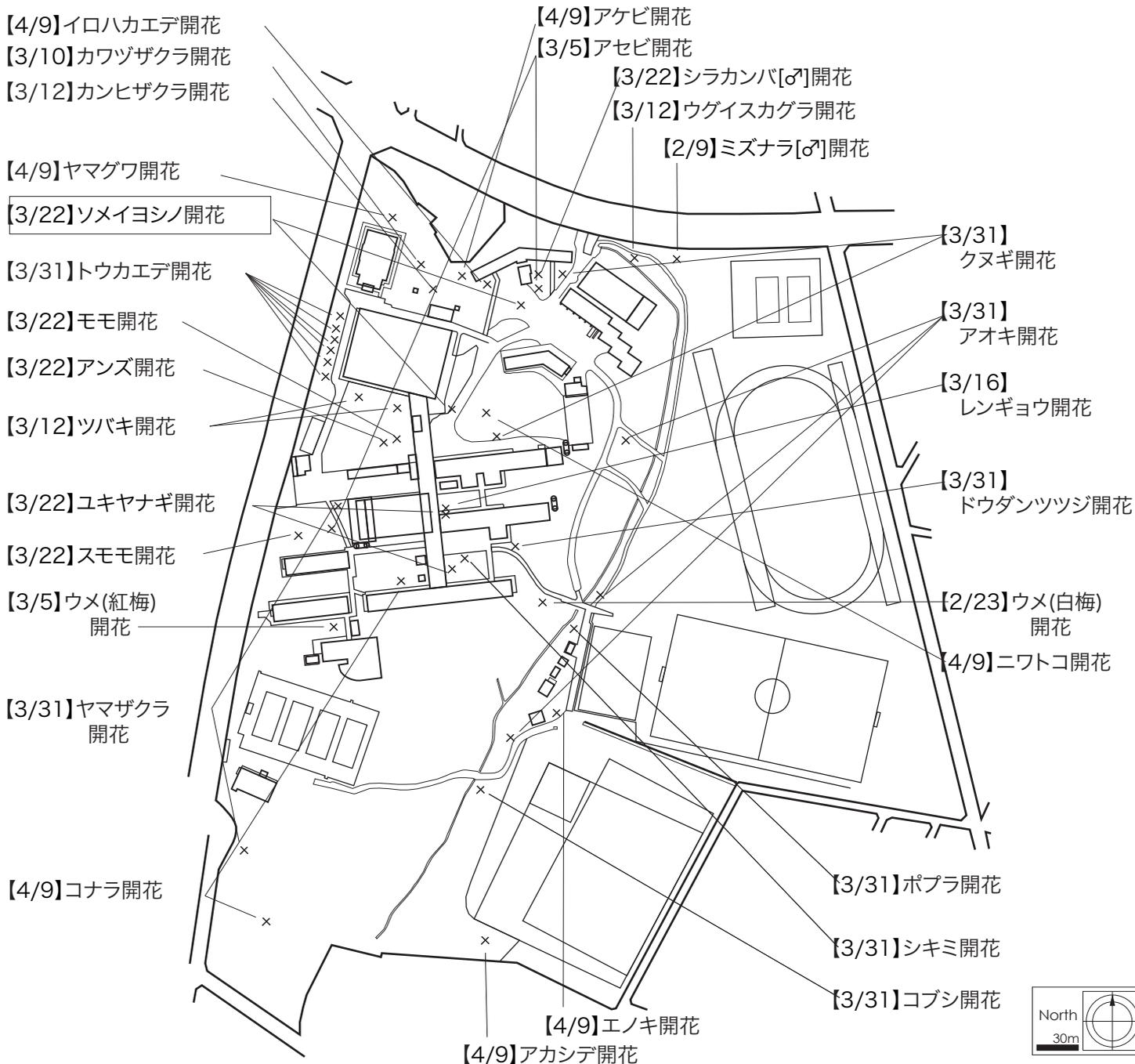
## Plants [2006年1月~2006年4月までの記録]

今年の開花は"ウメ"が遅く,"ソメイヨシノ"が早い。今年の東京の桜の開花宣言とほぼ同日に志木高のソメイヨシノも開花した。昨年夏から秋にかけての水不足は"コブシ"の花芽をほとんど初冬のうちに落とさせてしまった。したがって、今年の開花は例年の1/3以下である。トラックの周囲をトラクターの草刈り跡に沿ってホトケノザが咲いている。種がトラクターに運ばれたのであろう。

## Grass

- 19th Jan. 2006 ホトケノザ, ナズナ, オオイヌノフグリ開花.
- 21st Jan. 2006 ヒメオドリコソウ, タネツケバナ開花.
- 5th Mar. 2006 タチツボスミレ, ウシハコベ開花.
- 22nd Mar. 2006 マルバスマシレ, カントウタンポポ, ショカツサイ, ワタスゲ開花.
- 27th Mar. 2006 カタクリ開花.
- 31st Mar. 2006 キュウリグサ, カキドオシ, ムラサキケマン, スズメノエンドウ, キランソウ, ヒトリシズカ, フキ開花.
- 9th Apr. 2006 アブラナ, ヘビイチゴ, トキワハゼ開花.

## Wood



この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館で一度調べてみてください。

(Miyahashi)

実習農園に井戸が完成しました。できるなら我々で掘ってみたかったのですが、あいにく志木校は台地の上でかなり深く掘らないと水が出ないということで専門業者に掘削してもらいました。実際に現場で作業されていた業者の方がたいへん高齢の方でびっくりしましたが、井戸掘り一筋の方でいらして、この方いわく、大変いい水が出たということでしたので一安心というところでしょうか。ただこの水は農業用ですので、残念ながら皆さんは飲むことはできませんが。

井戸が完成したことで、田畑、およびビオトープ池にも水道水を使わずに給水できるようになりました。ようやく校内での自給自足の農業、本来の自然農法ができる設備が整ったと言えます。かつての野火止用水の代わりに地下水で水を供給し、田畑への肥料は校内の雑木林から落葉を利用して腐葉土を作りましょう。コナラの木を切って椎茸のほだ木にしてもいいですね。竹林は竹の子ももうすぐ取れますが、竹炭を作って田んぼの水をろ過して池に流すのもいいかもしれません。100年以上前には農薬や化学肥料なんてありませんから、日本人は雑木林をこんなふうにはぐつて宝の山に変えたのです。環境破壊が行くところまで行った今こそ、この原点に立ち返ることが必要なのではないでしょうか。こうして今この志木校にその材料が揃ったのです。あとは皆が鍬を手にとって行動するのみです。ぜひともかつての里山と農のサイクルを再構築し、荒廃した雑木林を再生させ志木校の自然を本物にしましょう。

PS：農園のビオトープ池にヒキガエルの産卵が3 / 13初めて確認されました。

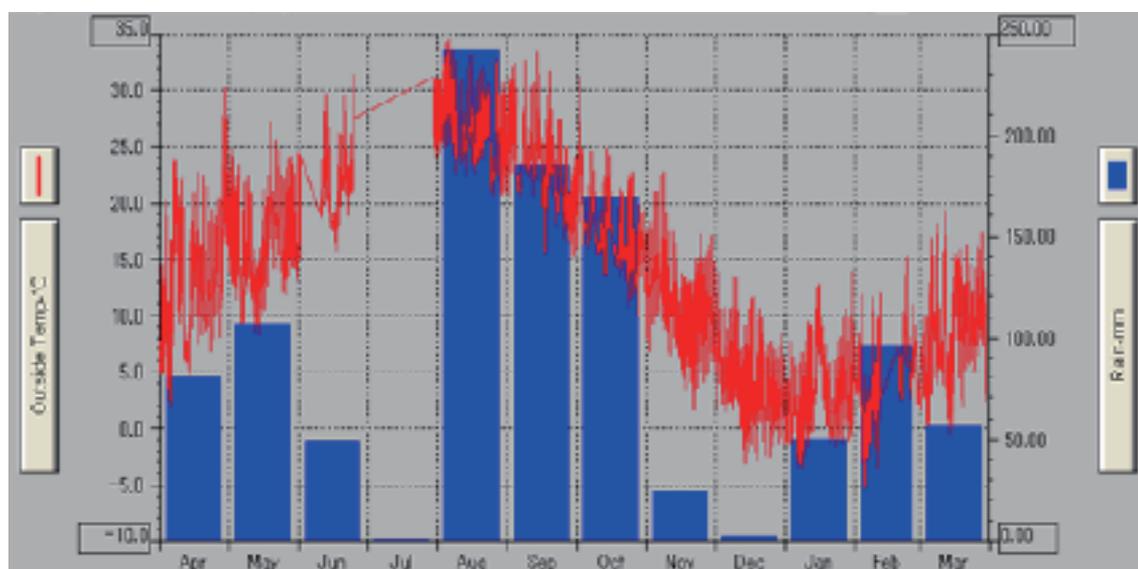
(Izawa)

## 志木高構内の気温変化(2005年度)

## Meteorology

1999年度より校内で10分ごとの気象観測を行っています(もちろん自動化されている)。観測している気象要素は、気温のほか気圧、風向・風速、降水量(雪を除く)、湿度、太陽放射量、紫外線インデックス等です。グラフは2005年度(2005年4月1日～2006年3月31日、一部欠測日あり…7月の欠測は天文部員の操作ミスで削除されてしまいました)一年間の気温変化と降水量変化です。

昨年度の降水量は梅雨前半の6月には非常に少なかったものの、9月に台風が上陸して年間降水量はほぼ平年どおりでした。気温は2004年のような極端な高温はないものの、9月の中頃まで真夏日が続いた一方、12月以降は強い寒気の南下により全国的にも20年ぶりの低温、豪雪に見舞われたのが印象的でした。



(Higuchi)

## 八重桜

いにしへの奈良の都の八重桜けふ九重にほひぬるかな 伊勢大輔・百人一首

一重の桜の季節は風とともに慌しく過ぎ去り、校内では百人一首のこの歌に出てる「八重桜」が咲き始めました。カルガモ池の傍に目立つ木が二本ありますね。メディア棟側とホームルーム棟側にそれぞれ一本ずつ、池に枝をさしかける形で立っています。百人一首のこの歌は、八重桜が九重(このえ 宮中を指す)で咲いている、という数による言葉遊びを眼目にしたもので、とつさの機転でこの歌を詠んだ伊勢大輔はたいへん賞讃されたと伝えられています。

ところで、二年生が読むことになっている『徒然草』の一節には次のような箇所があります。

花は一重なる、よし。八重桜は、奈良の都にのみありけるを、このごろぞ、世に多くなりはべるなる。吉野の桜、左近の桜、みな一重にてこそあれ。八重桜は異様(ことよう)のものなり。いとこちたくねぢけたり。植ゑずともありなん。

(百三十九段)

この頃の八重桜の流行を兼好は苦々しく批評しています。この頃、とは鎌倉末期、十四世紀前半のこと。「八重桜は風変わりだ。とてもしつこい感じで素直さに欠ける。あんな木を植える必要はない」と散散な物言いです。

数年前になりますが、仲摩智史君を中心に志木高のカルガモ池を舞台にした記録映画『カルガモ子育て日記』を作りました。その中に、この八重桜の花びらが散り敷いた池でのカルガモの交尾というシーンがありました。

兼好には嫌われた八重桜ですが、志木高の春は八重桜に彩られ過ぎていくのです。

(速水 淳子)

!!!お願い!!! 鳥のヒナをみつけても拾わないでください

これからの数カ月間、志木高内の鳥は巣立ちシーズンを迎えますが、たまに最初の飛翔に失敗したヒナが、情けない声で「ピーピー」鳴いている事があります(稀に道のど真ん中で…)。このような時は、人に踏まれたり、ネコ等に捕まらない高さの最寄りの木の枝などに止まらせてください。あとで親鳥が必ず回収にきますので御心配なく。

実は、鳥のヒナを拾って育てる事は『鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律』に抵触します(勝手に拾って育ててはいけない、という事です)。覚えておきましょう。

執筆・担当区分	動物・環境	井澤 智浩 (Izawa)
	天文・気象	樋口 聡 (Higuchi)
	鳥類・植物	速水 淳子 (Hayami)
	植物・地質 他[&発行責任]	宮橋 裕司 (Miyahashi)